

機関紙

No. 75

Dec. 11, 1965

スマイル

さて、この地方で羊飼たちが夜、野宿しながら羊の群れの番をしていた。すると主の御使が現れ、主の栄光が彼らをめぐり照したので、彼らは非常に恐れた。御使は言った、「恐れるな。見よ。常べての民に与えられるべきな喜びをあなたに。すべに信じる。きょうグビデの町にあなたをたのたために救主がお生れになった。このかたこそなるキリストである。あなたに寝かしてあるのを見るであらう。それがあなたに与えられる。神の御使が現れ、御使と一緒になつて神をさんびして言いた。地上では、心にならう人々に平和があるように

ルカによる福音書

第二章八節—十四節



クリスマスへの祝い方

靈南坂教會牧師 飯清
育友会会長

七面鳥やケーキをたらふく食べ、暖い部屋に
ざられたトリを囲んでキャロルをうたい、そし
て何よりの祭しみは、サンタクロースが持つてき
てくれたプレゼントを開いてみる時です。ま、た
く、クリスマスは一年中で一番うれしくて、皆が
ニコニコしている時です。

けれども一九六五年前の最初のクリスマスは、
決してそんなに楽しく美しいものではありませ
ん。

やがて赤ん坊が生れるというのに、どの宿屋も
満員で、どこでも押売りのように門前払いです。
できることならきれいな部屋を願ったのに、と
ころもあるうに馬小屋の飼葉おけがキリストのゆ
りかごになりました。しかもヘロデ王はこの赤ん
坊の生命をわらって、いたというのですから、ま、
たくみじめな誕生日でした。

キリストは暗黒で悲惨な世界に、光と希望を
えるために来られたのですから、わがわが貧しく
みすぼらしい姿をとらべました。クリスマスはた
しかに楽しい日ですが、楽しいばかりではなく、
愛と自己犠牲によつて、世界を明るく喜びに
ちたものとするために誕生されたキリストを憶え
ると決心し、努力することのぞんでいきます。
プレゼントももらうだけでなく、私たちが
サンタクロースになつて、プレゼントを上げるこ
とを、クリスマスへの祝い方の中に入れてお

りません。肢体不自由児の施設、辺地の子供達、
ライ療養所の人々、沢山の助けを待つてゐる人た
ちがいます。こんな人たちをおぼえ、助けの手を
差しのべることも、みじめで不景気な世界に光をか
かせること、それこそ、本当のクリスマスへの祝い
方です。

なせなら、キリストはそんな世界を救うために
来られたのですから。
そして、それがクリスマスなので、



「ただいま、いつてまいります！」

安積発也

(元年長隊々長)

ただいま！
沢山のリーダー諸氏ヤスカウト諸君に弥栄と、
リポビタンDで激励されて羽田を発つてから、
二年ぶりに又羽田へ帰つてきました。この間のア
メリカ留学生生活は辛くそして楽しいものでした。
つくづく「行つてよかつた」と思ひます。僕の
勉強していたコーネル大学は、ニューヨークから
北西へ飛行機で約一時間、車だと時速一ニ〇キロ
位でとほして五、六時間のところのイサカという
小さな街にありました。それはそれはきれいな大
学で、山あり谷あり、小高い緑と花の丘の上に建
物が点在し、ゆるやかな蒼い湖とイサカの街な
を見下してあります。施設もいたれりつくせいで、
一万三千人の学生の尺めに、図書館が九つ、体育
館は男女一つずつ、フットボール場から野球場、
テニスコートなどでも四十面、ホーリング場から
スケート場、ゴルフコースまでありました。ノー
ベル賞をもらつた学者も数名いるし、仲々レベル
の高い大学でした。勉強はきついでした。朝七時
に起きて八時から授業、夜十一時半の閉館まで
書館で勉強して十二時にアパートへ帰り、ルーム
メイトたちへアメリカ人とフリーピン人と真夜
中の食事(四度目)をして、それから又勉強、寝
るのは二時という日がつづきました。楽しいこと
も多かったです。週末のパーティやナイトや、テニ
スやスキー(零下二十度にもなるのです)。ス
カナダはじめいろいろな処へ旅行しました。ス

カウトラリーなどにも出ました。しかし、三年
間を総合してみれば、やはり竹の節のような緊
張した期間だ、と想ひます。
去る六月経営学修士過程を卒業、今年の夏は
国連本部でインターンシッププログラムに出
ました。これは世界各国から大学院の学生をえ
らんで教育するもので、毎日偉い人の話をきい
たり、セミナーに出たり、安保理事會などに
たりする他、専攻別に違つた部署に配属されて
そこで働きました。百十七ヶ国の旗のひらめく
四十二階建のマツク箱のような国連ビルの三十
七階に僕は一部屋をもらつて、仲々快適でした。
握手しました。ウ・タント氏は物静かでも
鬼力のなビルマの仏教徒です。
人間の一生なんてわからないもので、僕はこ
の国連にいた期間中に国連本部から専門職員と
して働かないかという誘いをうけ、来年一月か
ら国連本部特別基金につとめることになりました。
た。メコン河の開発とかが、アフリカのい
なご退治とかが、そういつた経済社会開発をす
るところです。
こんなわけでは、折角「ただいま」とい
のですが、もうすぐ「いつてまいります」と
いぬなければなりません。最初の二年はニュー
ヨークにいて、そのあとは一体全世界の何処
へ行くかわかりません。アフリカか東南アジア
か、南米かそれとも日本か。しかし何処へ
い、でも、僕が四国で得たかけがえのない経験
を大切に、いつも責任感を強くもつてい、と
思ひます。皆さんもお元気で、いつてまいります。

のけ者は一人で沢山ノ

団委員長 田中正男

十二月になると街にはジングルベルの唄声が流れクリスマス教国でもない我國にもクリスマス不在のクリスマススズンがやってくる。クリスマスは楽しむものと決めてかかっている人も多いが、私たちはこのさい二千年前に神の子としてこの世に遣わされた何の罪もないのに皆からのけ者にされて十字架にかけられて殺された一人の人、キリストを考えてみたり。人へのけ者にされると憎しみを抱き、怒り、不満を感じ、争を生じ、罪を犯すようになる。逆に愛されていると感ずれば誰もが善人になることができるのだ。私たちの罪のため二千年前に苦しめられ、私たちの身代りになって死んでくれたキリストの愛を考え、お互に愛し合う生活をしようではないか。



静かに考える日

少年隊長 柳健一

ぼくにと、クリスマスはイヤな日である。クリスマス会の当日や、その前後の一週間程は、色々な祝いや美しい賛美歌を聞く楽しいプログラムの満ちている。でも、それらがはなやかで美しく、その一時が楽しければ楽しい程、その年のクリスマスはぼくにと、イヤな日になる。それはクリスマスは「考える日」だからである。キャンディルサーブスが終って教会を出ると、冷たい北風の夜空にオリオン座の三ツ星がキラキラときらめいて、その光を見る。それを見ながら家に帰る時の気持ちとてもイヤな気持ちである。クリスマスは自分のことを静かに考える日だからである。普段の自分の「悪党」を発見して、自分でそれをこらえ、ある日だからイヤな日である。普段、ぼくが「おきて」と「ちか」の生活をどれ位しているかを心の通信簿につける日だからイヤである。とても、キャンディー喜んでいられない。イヤな日である。でもクリスマスは大切な日である。神様と自分を考えて、反省しながら少しでも強くなるように努める日だからである。二千年前に羊飼たちが、そうしたように、オリオン座の下で冷たい冬の霜を肩に積もらせながら静かに考える日である。そして、いっぴん凍ってしまっから、新たにフアイトを燃して、情熱で氷を赤く暖めていく事のできる日である。でもぼくは、いまだにそんなフアイトが起った事がなく凍ったままなので、クリスマスはぼくらにイヤな日である。

団 体 委 員 会 報 告

十一月二十日
於 客 室

一 団 体 議 報 告

- 十一月十八日午後二時から四時までG.S. B.S.合同クリスマス礼拝。
- G.S. B.S.合同リバー大会を年四回もつ。
- 十一月二十三日駒沢グラウンドで合同訓練大会が行なわれた。
- スカウト専用電話が階下講堂入口に開設された。
- 庭に投光機が二台出ました。又幼稚園新ホールは許可を得れば使用可。
- 堂守さんが決まった(高橋さん)鍵かけに責任をもち集会后の人は高橋さんに報告しおまけ遅くまで残らぬこと。
- 団体会員へのリーダーの出席は必要に応じて出席をのぞむ他は現在のまま運営する。
- 教会改築資金のため献金の目標額七〇万円のうち現在高は五五万五千元である。
- B.S.の規約改正をしたらどうか。

クリスマス総員礼拝に

どうぞご出席ください。

十一月二十六日(日)午前十時十五分

スカウトのみなさん、

クリスマス礼拝に出席しましょう。

十一月十八日(土) 午後二時

専用電話がひけました。

(五八四) 四七三六

土曜日集会時の連絡は必ず下記の番号に階下講堂入口のホンクの電話のベルが鳴っているのをきいたらすぐにどなたでも受話器をとってお互にとりつぎましょう。



スマイル No. 75

発行日 昭和四十年十二月十一日 発行

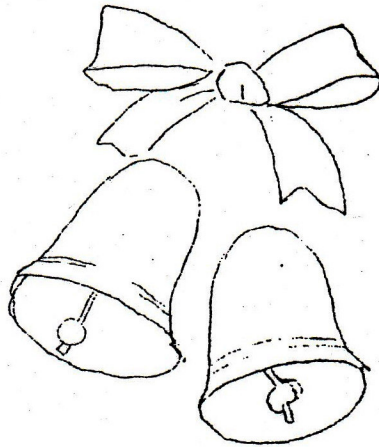
発行 東京第四団 五月年隊

団 体 委 員 会

発行所 東京都港区赤坂美南坂町14

聖南坂教会内

日本ボーイスカウト東京第四団



クリスマス
おめでとう！

クリスマス